

図書館だより

～ 今月のおすすめ本 ～

広告 20 世紀

天野祐吉・島森路子

20 世紀に登場した国内外の広告の中から、100 作品に焦点をあて、豊富な図版と詳細な解説で当手を振り返ります。広告制作者であるクリエイターの紹介もあり、時代を象徴する広告の情報が満載です。(東)



5 アンペア生活をやってみた

斎藤健一郎

1 か月の電気代が 190 円! 東日本大震災をきっかけに、エアコンや炊飯器などの家電とサヨナラして始めた、試行錯誤と創意工夫の節電生活。著者はおわりに、「地球に対して正直に暮らす爽快感」をたくさんの人に味わってほしいと書いています。(西)



▶ 詳しくは、東図書館 (☎ 62・0190) 西図書館 (☎ 75・5406) へ。



ごみブクロウの (方法) 『エコな生活ホーホー』教えます!



携帯電話やデジタルカメラなどの小型家電には、金や希少金属(レアメタル)が多く使われているよ。それらを再資源化するために、市では 10 月から公共施設に回収ボックスを設置して、使用済み小型家電を分別回収しているんだ。みんなも小型家電の回収に協力してね!

回収ボックス設置場所
市役所、西支所、加佐分室、中総合会館、東・西図書館
《生活環境課》

ドクター T のひとりごと その 29 地方創生を実現するには

政府は地方創生を成長戦略としているが、私は「心豊かに暮らすために必要な環境を整備することによる地方活性化策」と考えている。

19 世紀以降、電気や石油などの燃料革命が起こり、それに付随してさまざまな科学技術が急速に進歩し、昔と比較すれば衣食住は劇的に改善した。しかし、東京に代表される大都会は一見華やかであるが、コンクリート建造物が乱立し、人の温もりが感じられない殺風景な街だと私は思っている。経済が優先され、利便性や効率性を重視し、利益や成果が要求される社会に順応できない人達がいることは容易に想像できる。お金や利便性が人に幸福感を与えるとはとても思えない。むしろ、競争心を煽られ、心が休まることなくストレスに曝される。

「地方で心豊かに自分に合ったリズムで暮らしたいと思う人達に定住を促す政策」が地方創生の鍵となる。

豊かな自然、歴史、伝統文化、芸術などに触れ、新鮮な魚や野菜を食べることができ、都会並みの教育・医療レベルを有し、衣食住の経費が都会より安ければ、少ない収入でもゆったりとした生活ができると思う。

私は、これらの環境を提供できる地方都市が地方創生に成功すると考えている。

防災ひとくちメモ 秋季火災予防運動を実施

11 月 9 日(日)～ 15 日(土)、**「もういいかい 火を消すまではまあだだよ」**を統一標語に秋季火災予防運動を実施します。

【命を守る 7 つのポイント】

- ①寝たばこは、絶対やめる。
- ②ストーブは燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ③ガスこんろなどの**そばを離れるときは**、必ず火を消す。
- ④逃げ遅れを防ぐために、**住宅用火災警報器を設置**する。
- ⑤寝具や衣類およびカーテンからの火災を防ぐために、**防災品を使用**する。
- ⑥火災を小さいうちに消すために、**住宅用消火器等を設置**する。
- ⑦お年寄りや身体の不自由な人を守るために、**隣近所の協力体制**をつくる。

11 月 9 日は 119 番の日

住民と消防をつなぐ電話番号 119 番。消防が 119 番通報で知りたい情報は「**火災か救急か**」「**場所**」「**どんな状態か**」です。貴重な情報源となりますので、あわてず通信員に従って話してください。



▶ 詳しくは、消防本部 (☎ 66・0119) へ。

「引き揚げ」の記憶を次世代へ

引揚記念館に展示・保管している海外からの引き揚げやシベリア抑留などに関する約 1 万 2 千点の資料の中から、今回は「**口紅**」を紹介します。

当館の常設展示の中での極めて小さな資料の一つが今回紹介する口紅です。

口紅はフランス製のもので、寄贈者の一家が満州で暮らしていたときに夫が妻へ贈ったものです。平穏な生活は昭和 20 年 8 月に夫が軍隊に召集され、そのままシベリアへと強制連行されて一変しました。日本へ引き揚げるまでの間、一人娘と二人だけの生活となり、夫の無事の帰還を祈って口紅を大切に持っていました。

夫の安否がわからないまま、いよいよ日本へと引き揚げることになり、口紅も肌身はなさず持って、夫のいない不安な気持ちとようやく日本へ帰れるという安堵の気持ちを抱きながら引揚船に乗船しました。

引揚船が日本へ向けて出発して間もなく、船内で 2 歳くらいの女の子の具合が悪くなり、乗船していた看護婦が持っていた注射を打つなどしましたが、治療のかいなく小さな命のともじりは静かに消えていきました。

その悲しみに、周りの人々は女の子の安らかな旅立ち



▲口紅 (金属ケースのふたを開けた状態)

を願って、やっとの思いで寄せ集めた紙で花を三つ作って最期の別れに手向けました。そのときに持っていた口紅をそっと女の子の唇に塗ってあげました。その姿は、まるでフランス人形のようにかわいらしかったといえます。女の子の亡きからはそのまま海へと水葬に付され、青い海の深くへと消えていきました。その様子を見送りながら、口紅の寄贈者は自分の娘に「女の子はお魚と友達になったんだよ」と言い聞かせたそうです。

祖国の土を踏むことができず、海のかなたに静かに眠る人々の記憶と、引き揚げ途中で何度も悲しい別れを体験した人々の平和への祈りがこの口紅には込められているのです。

この話は、引き揚げ体験記「お魚になった女の子」という題名で館内の展示室で閲覧することができます。

▶ 詳しくは、引揚記念館 (☎ 68・0836) へ。

広げよう人権の輪 ～もしかしたら DV かも…～

毎年 11 月 12 日～ 25 日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です

「既婚女性の約 3 人に 1 人…」これは内閣府が行った調査(※)で、配偶者から暴力を受けたことがあると回答した人の割合です。10 人に 1 人は何度も暴力を受け、20 人に 1 人は命に危険を感じています。それにもかかわらず、被害を受けた女性のうち 4 割はどこにも相談していないと回答しています。

夫婦や恋人などの親密な関係にある者から振るわれる暴力を DV (ドメスティック・バイオレンス) といいます。その多くが家庭内で行われ、人の目に触れにくいことから、加害者に罪の意識が薄く、潜在化しやすい傾向があります。そのため、周囲が気付かないうちに暴力がエスカレートし、時には生命に危険が及ぶこともあるなど被害が深刻化しやすいという問題があります。

「殴る」「蹴る」といった身体への暴力だけではなく、「行動を監視する」「言葉や態度で脅かす」「ばかにする」といった精神的・社会的な暴力、「生活費を渡さない」「性行為を強要する」といった経済的・性的な暴力も DV にあたり、その多くは男性から女性に対するものです。

また、暴力を受けている本人だけではなく、その

子どもにも重大な影響を及ぼすことがあります。子どもの目の前で暴力を振るうことは、児童虐待にあたります。さらに、その暴力の矛先が子どもに向けられることも少なくありません。

配偶者などから暴力を受けて「夫婦間の問題だから自分で解決しよう」、あるいは「私も悪かったから仕方がない」とがまんしていませんか? どんな暴力であっても、許される暴力は絶対にありません。DV は、あなたの大切なお子さんをも巻き込んでしまうのです。「もしかしたら DV かも…」と感じたら一人で抱え込まず相談機関に相談することが大切です。まずは一歩を踏み出してみませんか。

《人権啓発推進室》

主な相談先 命の危険を感じたら迷わず 110 番

- ◆舞鶴市人権啓発推進室 (☎ 66・1022) 月～金、8 時 30 分～ 17 時 15 分 (祝日、年末年始を除く)
- ◆京都府家庭支援総合センター DV 相談専用電話 (075・531・9910) 毎日、9 時～ 20 時まで
- ◆京都府北部家庭支援センター DV 相談専用電話 (0773・22・9911) 月～金、9 時～ 17 時まで (祝日、年末年始を除く)

※「男女間における暴力に関する調査 (平成 24 年 4 月)」より 2014 - 11 maizuru 18